



● 中神熊野神社 獅子舞(春祈禱)



▲ササラ擦りの女の子

中神地区では江戸時代末期頃から、庶民の芸能として定着した三匹獅子舞。

その役者として、小学生児童が棒使いを担当している。ササラ擦りは花笠をかぶっているので顔が見えないが、棒使いは「エイ！ヤー、トートー」の掛け声に合わせて、長い棒をクルクルと回して左右の足を前、後ろとステップを繰り返す。

そして見事な棒裁きを演じ、拍手喝采が満場に広がる。その姿が可愛らしくもあり、心なごませてくれる。数年もすると、獅子を演ずる名役者になることでしょう。

東京都指定の無形民俗文化財「中神の獅子舞」による中神熊野神社例大祭「春祈禱」が、平成31年4月6日(宵宮)福厳寺・日枝神社で、7日(本宮)中神熊野神社で開催されました。両日共に好天気めぐまれ最高気温22度、桜満開の最中、本祭の熊野神社境内には、午前11時～午後4時30分まで、多くの来場者が来られ、最終演舞まで観賞する方々で会場は最後まで盛り上りました。

三匹獅子舞は四方に囲まれ、清められた神聖な舞台上で執り行われる。その周りは6人の女の子が花笠をかぶりササラ(竹の楽器)を擦り、音を奏でながら、笛太鼓と共に演技が進行する。中神の獅子舞は調和が実に美しい。

獅子が身にまとった唐草模様の衣装と獅子の頭、花笠のコントラスト色彩が素晴らしい。



▲棒使いの男の子

三匹獅子舞にはヘイ追いという役がある、演目、雌獅子隠に登場するヘイ追いは長年にわたり、谷澤和夫さんが演じている。今回、正式に弟子入り志願したのが、藤井栄希君。(13才)藤井君は現在獅子の役者としても活躍している中学生だが、ヘイ追いにも関心があり、演じて行きたいと話してくれた。雄二頭が雌を探している合間に獅子の後ろから近づき、鈴とヒョウタンをちらつかせてはちょっかいをする場面、おっかなびっくりして、観客を笑わせることができれば、ヘイ追いは役者として一人前なのです。

(取材・写真 広報部会 / 幡垣 誠)



▲左 藤井栄希君 右 谷澤和夫さん